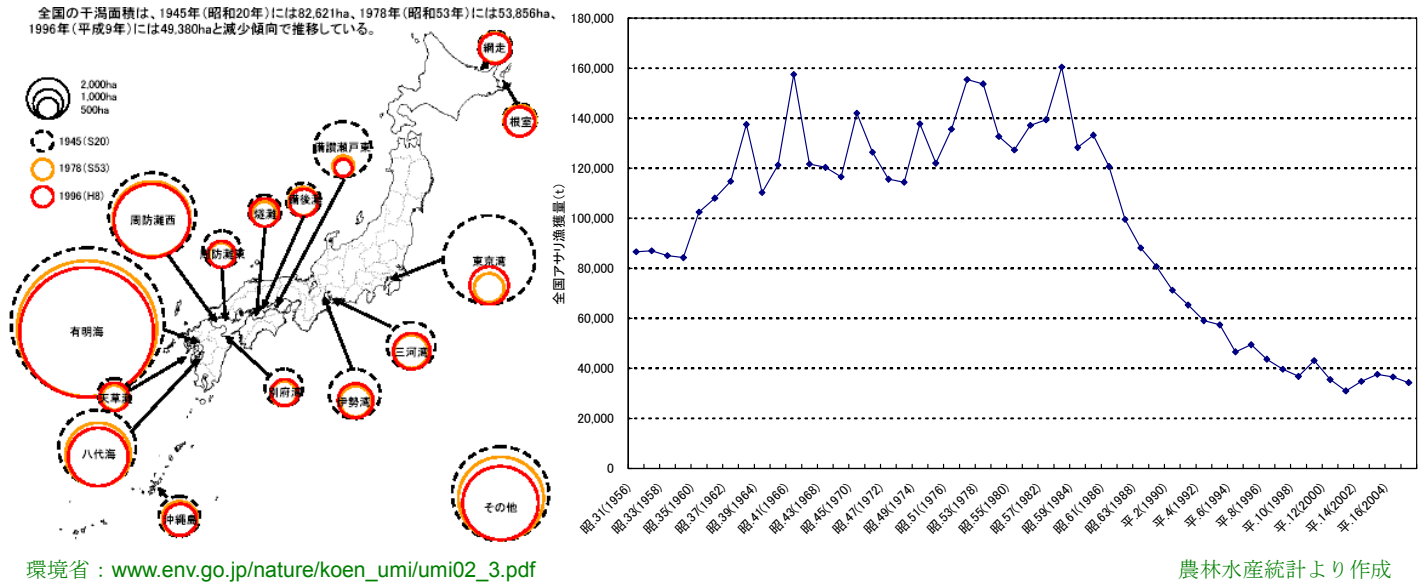


干潟における漁場環境改善

(例:アサリ漁場)

干潟域の現状

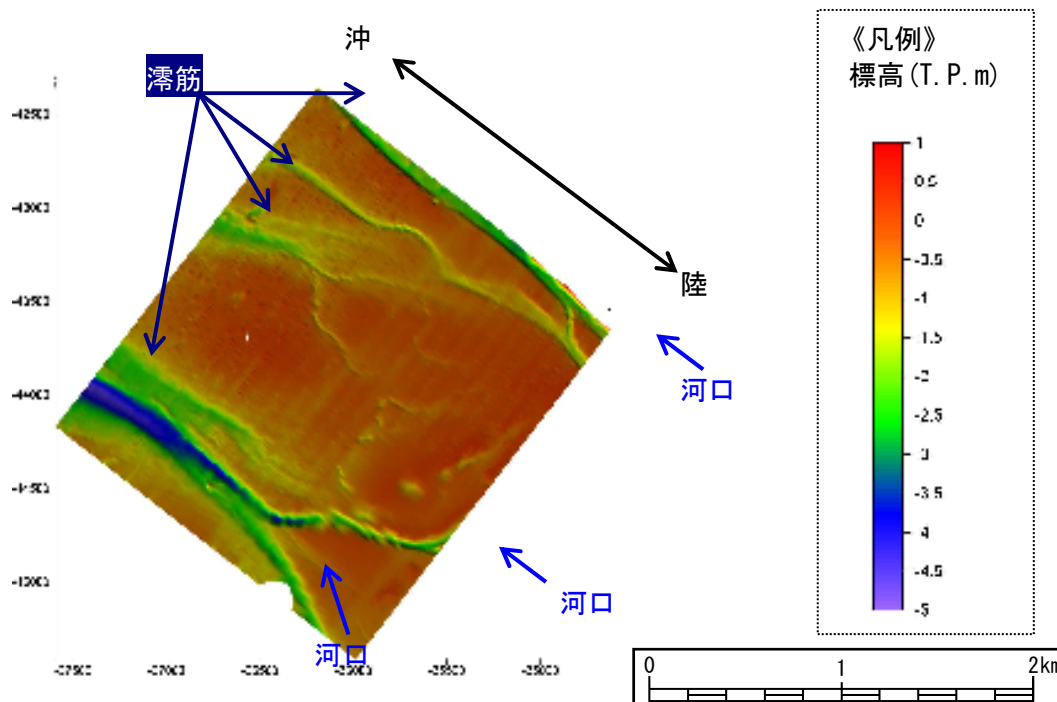
近年日本沿岸の干潟域は、人間活動による富栄養化や沿岸域の開発に伴う干潟域の減少により、アサリの生息域の環境が悪化し、アサリの漁獲量も1983年をピークに年々減少する一方です。



対策立案に向けた調査

■海底地形の把握

深淺測量等(下図は詳細地形が把握可能な3次元測量)を行うことによって、干潟域の澁の位置や地盤高などの海底地形を詳細に把握し、アサリ漁場の環境改善の基礎資料とします。



■底質性状・生物生息状況の把握

アサリ漁場の環境改善の対象領域候補地点の選定を目的として、採泥を行います。それら採取された試料をもとに底質の物理環境（粒度・密度等）及び化学環境（COD・強熱減量・硫化物等）の把握を行います。また、同時に底生生物調査を実施し、対象領域の生物の生息状況も把握します。



対策工検討

上記調査や既往文献等から対象海域におけるアサリの生息に適した条件を設定した後に、波浪・流況等の数値シミュレーションによる技術的な観点から適切な対策領域を選定します。その後、地元漁場利用者（地元漁業協同組合）等のヒアリングから得られた利活用の視点も踏まえ、アサリにとって最適な環境改善領域・手法を決定し、設計を行います。

